

所<sup>12</sup>等が設けられている。

文部省達第一号は全国的規模で実施されているから、その控は各府県で保存されている可能性が大きい。また、文部省において、これらが保存されているなら、一層貴重な資料といえる。

(金沢医科大学)

## 伊勢原市域医療史の若干の問題点

——『神奈川県伊勢原市の医療史』

(仮題)の調査と執筆をおえて——

奥 富 敬 之

昭和五十七年正月、神奈川県伊勢原市医師会の依頼を受けて、私の同市における医療史の調査と執筆が始まった。

それから三年有半が経過した。そして六十年九月、本論部分の執筆がほぼ完了した。あとは、付篇にするための若干の資料や統計の整理と年表の作成、それに挿絵を選択する仕事が残っているだけである。

本書は、一般の地域医療史や市町村の医師会史とは、やや相違した点が二、三あるものと自負している。

原始時代から書き始めてあるということは、その一つである。

原始の巫医、古代の官医、中世の僧医と軍陣外科、近世の儒医(村医)、および近現代の洋医と、各時代における医

師の主要な存在形態を、市域の二町五ヶ村において発見し、説明を加えた。

調査と執筆にさいして、つねに中央との関係に留意したことも、その一つである。

同市域は、古代では相模国衙に近く、中世では鎌倉・小田原に近く、近世には江戸に近く、そして近現代では東京に近い。このような地域的特性は、さまざまなかたちで各地代における市域の医療と関係してきている。

多くの場合、市域の医療は中央のそれを受容し、これに追随する傾向を示した。しかし近現代において、医師会の結成や休日診療制の開始など、かなり早期で、しかも自主的だったものもあった。これらは、市域の医師の情熱と努力とによって、ときには中央の医界をリードし兼ねなかったのである。

また、本書では、医師の動向のみを対象にしたわけではなかった。広く市域の住民の立場にも目を配ったつもりである。その意味で、民間医療のわずかずや、隔離病舎と焼き場の関係などの問題も取り上げた。

調査にあたっては、同市医師会の援助を得たほか、郷土

史家や住民古老からも取材させて頂き、若干のアルバイト学生も動員した。

明年昭和六十一年三月一日は、同市の市制施行十五周年記念日にあたっている。本書は、その日を期して、出版刊行される予定である。

以上、同市医療史の調査研究によって判明したと思われる若干の事柄を、地域医療史研究の一例報告の一つとして、会員諸兄姉に御報告したいと思う。

(日本医科大学助教授)